

14. 「プライバシー」

本時のポイント

1. インターネットで自分に関するデータを入力することがありますが、それらのデータが目的以外に使われないか、第三者に漏れるのではないかと、プライバシーに関する危険が気になります。
2. ここでは、自分のプライバシーを守ること、他人のプライバシーを尊重することについて考えます。

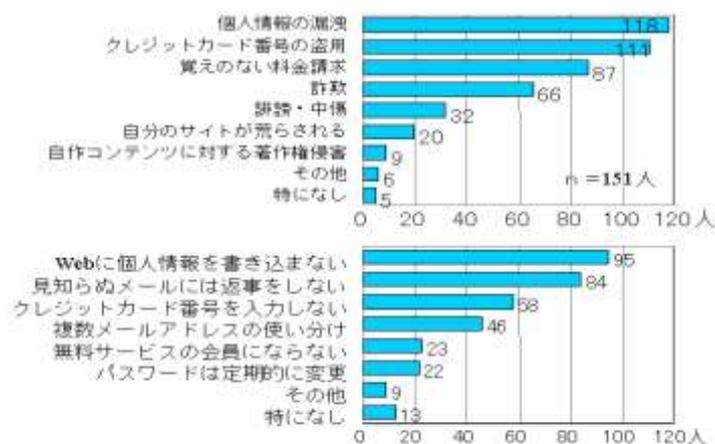
(1) 自分のプライバシーを守る

「関係のないところから商品宣伝のメールがきた。どうしてメールアドレスを知られたのか気味が悪い」、 「私のことを悪くいうメールを多くの人たちに流された」 「自分の気に入っている電子掲示板に、最近卑猥な言葉を書き込む人がいた」 などの被害が多くあります。このような、自分のことについて自分が望まないのに他人に知られてしまうことを防ぐことが必要です。

① アンケートでの注意

プレゼントや懸賞のサイトは、単にサービスをしているのではなく、あなたの住所、年齢、趣味などの顧客情報を入手して販売戦略を立てるのに利用しているのです。それ自体は悪いことではありま

せんが、そこから情報が漏洩する事件がよくあります。顧客情報、特に特定の目的のために整理された顧客リストは、結構な値段で売れるのです☆。それで入手した情報を他社に売るとか、あるいはプライバシーを入手する目的でデータを集めている連中もいるのです。そのようなサイトに自分に関するデータを入



日経パソコン「インターネットのトラブルについてのアンケート結果発表」2000.3
<http://rip.c.nikkeibp.co.jp/rip/forall/20000515sanq/index.html> より

■プライバシーマーク制度；

<http://privacymark.jp/>

■個人情報保護マーク；

<http://www.soumu.go.jp/hakusyo/tsushin/h13/html/D1283000.htm>

力したら、そのデータがどこにまわされるかわかりません。

(a) プライバシーポリシー

ですから、いかがわしそうなサイトには個人情報を入力しないのが無難です。いかがわしいかどうかを判断するのは困難ですが、次のことが一応の基準になるでしょう。

通商産業省の個人情報保護ガイドラインに準拠して個人情報の取扱いを適切に行っている民間事業者に対しては、「プライバシーマーク」や「個人情報保護マーク」をつける制度があります。それを付けているページはまだ少ないのが現状ですが、このマークがあれば安全なサイトであるといえましょう。

信用のおけるサイトでは、「プライバシーポリシー」（名称は多様ですが）が掲げてあります。これは、送ったデータをどのような目的に使い、どのように管理するのかを示しているものです。

そのサイトの周りのページを見ましょう。特に「会社概要」のよう

なものを探しましょう。そうすれば、まともなページかそうでないかは、ほぼ理解できましょう。どこを探しても、メールアドレスだけで住所や電話番号がないというサイトは危険です。



プライバシーマーク
(日本情報処理開発協会)



個人情報保護マーク
(個人情報保護登録センター)

(b) 個人情報の漏洩事件

良心的なサイトでも、ミスにより個人情報を外部から見えるところに掲げ、内部の者が不正に持ち出すとか外部から不正アクセスにより盗みだすなど、顧客情報が第三者に漏洩した事件は多いのです。ですから、信用のあるサイトであっても、提供する情報は必要最小限に絞りましょう。あなたが考えて「どうしてこんなデータまでも必要なのだろうか」と不審に思うような項目は入力するべきではな

いし、その入力を必須としている場合は、そのデータ何か異なる目的に使うためでしょうから、たとえプライバシーポリシーを掲げていても信用してはいけません。

②掲示板・チャット・メーリングリストでの注意

掲示板やチャットは仲間同士のおしゃべりのようなもので楽しいので、とかく自己紹介を兼ねて自分のプライバシーに関することを気楽に掲げがちです。ところが、その中身を誰が見ているかわかりません。覗き趣味のような人はどこにでもいるのです。

(a) ハンドル名に注意

電子掲示板やチャットでは、ハンドル名（仮名）を使うことが通常です。本当に信頼できる場所でない限り、本名を出すとか女性名称にするのは避けたほうが無難です。それに、なるべく本人が特定できること—住所とか大学など—がわかるような名前は避けましょう。

(b) 相手に気を許すな

逆にいえば、女子大生だと名乗りそれらしいハンドル名で、女の子らしい表現の文章を書いているだけでも、実は40代の男性だったというようなことはよくあります。単に楽しんでいる程度なら罪も軽いのですが、そこでカモを物色していることすらあります。そのような人は、いくつもメールアドレスを持っていて、チャットのときはAというアドレスを使い、Bというアドレスであなたに近づくのですから、あなたはAとBが同一人物だとは気づかないでしょう。

(c) トラブル対応

掲示板やメーリングリストであなたのプライバシーを暴かれたり誹謗されたりするトラブルが多くあります。その内容が真実であろうと虚偽であろうと、それはれっきとした犯罪です。それに敢然と立ち向かうこともよいでしょうが、このようなことをする人はスト

一カー的な性格なことが多いので、さらに過激になる危険があります。このような内容の掲示を許している主宰者にも責任があります。主宰者に抗議して掲示板の内容を削除させたり、メーリングのときには加害者をリストから外させるようにしましょう。そうすることは被害者の権利であり、それに従うのは主宰者の義務なのです。

③ホームページでの注意

自分でホームページを作っている人への注意です。ここからプライバシーが漏洩する（というよりも公表している！）ことが多いのです。特に次のようなことに注意しましょう。

(a) ページの内容

まるで日記を公表しているようなページがあります。たとえそれがフィクションであっても、それを見る人がどう解釈するかわかりません。

(b) 自己紹介

あなたのページの内容に正当な抗議をする手段を提供することはエチケットです。少なくともメールアドレスは明示するべきです。しかし、本名、住所、身分などに関しては、そのページの内容により必要な場合もあれば不要な場合もあります。そのページをよりよく理解するための情報は提供すべきですが、不要な情報はできるだけ掲げないほうが安全です。逆にいえば、自分が知られたくない個人情報掲げなければ他人が理解できないような内容は、そもそもホームページに掲げるべきではないのです。

③その他の注意

(a) メールアドレスや送信者名について

これからの社会では電子メールの利用が進みます。ビジネスに従事している人は、メールアドレスを名刺に印刷する人も多くなりました。就職活動でも連絡に電子メールを使うことが多くなりました。

そのようなわけで、メールアドレスを秘密にするのは無理でしょう。でも、若い女性はいたずらの対象になりやすいので、女性であることがすぐわかるようなユーザID（メールアドレスでの@の前）にしないほうが無難です。とはいえ、あまりふざけた名前にすると、就職活動などでは不適切ですね。苗字だけあるいは名前の頭文字と苗字とにしておくのがよいでしょう。

メールソフトでは、自分のメールアドレスに名前をつける（「送信者」あるいは「From」に表示する名称）ことが多いですね。相手にはその名前が表示されます。そのときも本名を隠す必要がある場合と、本名を示すのがエチケットな場合があります。いくつかの名前を用意しておき、場合によって使い分けるようにしましょう。

(b) すべては自己責任

ホームページに掲げるのはもちろんのこと、チャットに参加したりアンケートに答えるのも強制されたのではなく、あなたの自由意思で行なったことです。ですから、その結果には自分に責任があることを認識してください。インターネットの世界は、実世界よりもドライな世界なのです。

(2) 他人のプライバシーを尊重しよう

自分のプライバシーを自分で守るのは当然ですが、もっと重要なことは、他人のプライバシーを守ることです。案外気づかないでそれを洩らしていることが多いのです。

① プライバシーの対象

プライバシーとは、「自分のこと」を自分の意思に反して他人に知られたくないということです。では、その「自分のこと」とは何でしょうか？ 一般に病歴や犯罪歴などは秘密にしたいのは当然です。社会人なら収入や学歴もそうでしょう。女性ならば3サイズも

知られたくないでしょう。住所や電話番号もみだりに知られるのは困ります。大学や会社も知られたくないないし、ある会合に参加したことも知られたくないので、名簿とか集団写真も公表されたくないようなこともあります。このように、プライバシーとは客観的な範囲があるのではなく、本人がプライバシーであると思うことがプライバシーなのであり、他人が判断することではありません。

②インターネットの特徴

あなたが本を出版しても、よれを読んでもくれる（立ち読みでも）人数はたかがしれています。テレビで放送しても、録画でもしない限りその時点で消えてしまいます。ところがインターネットでは、世界中の数億という人数がそれを見る機会がありますし、積極的に削除しない限り永久に残ってしまうのです。

とくにホームページに掲げたものは、多くのポータルサイト（YahooやGoogleなど）がそのURLを収集していますし、ロボットによるサーチエンジンにより内容全体ではなく部分的な文字で判断している場合もあります。それで積極的にあなたのホームページを探さなくても、何かの拍子にそのページを見ることもあるのです。ですから「どうせ私のホームページなんか見る人は少ない」とはいえないのです。

③漏洩の原因と対処

メールやホームページで、友人の紹介をしたりしませんか？ 悪口ではなく褒めたことであっても、当人は不快になるかもしれません。また、名前を出さなくても、それを見る人がほかの情報を持っていて、それが誰のことか特定できることもあります。

ホームページに旅行の写真を掲げることもあるでしょうが、そのときに友人も写っていませんか？ 友人は、あなたのグループに入っていること、その旅行に参加したことを公表されたくないと思っているかもしれませんし、（名前が出ていなくても）自分の写真を

使われたくないと思っているかもしれません。みだりに他人の写真を公表するのは肖像権の侵害にもなります。

このように、思いがけないことで他人のプライバシーを侵害することが多いのです。ですから、他人のことには触れないのが安全ですし、それを掲げるときには当人の承諾を得るようにしましょう。逆に、他人があなたの情報を掲げることが承諾するときには、それによる結果はあなたの責任であることを認識しましょう。

本時の重要事項

1. プライバシーとは、「自分のこと」を自分の意思に反して他人に知られたくないということです。

